

## パウロと世界宣教／ヴィジョンに生きる

使徒パウロは、三年にわたるエフェソ伝道を終えようとするにあたり、すでに次の計画を立てていた。「パウロは、マケドニア州とアカイヤ州を通りエルサレムに行こうと決心し、『わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない』と言った」とルカは記している（19:21）。

私はそこにパウロの世界宣教の壮大なヴィジョンと戦略を見るような気がする。パウロは当時のローマ帝国を3回にわたって伝道旅行するが、それは決して行き当たりばったりの、思いつきの伝道ではなかった。そこには伝道の戦略というものがあった。

その第1は「拠点伝道」である。すでに第1、第2伝道旅行で見たように或る地方に行くと、その地方の中心地にまず行き、そこで福音を伝える。そして、信者が起こされると教会としてまとめ、そこを拠点に、周辺の町々に福音を伝えていく。彼の働きは、シリアのアンティオキアから始まった。パウロはそこから出発し、小アジアの町々を巡回し、アテネ、コリントに行った。そして今エフェソにいる。エフェソは、アジア州の首都であり中心であったので、当然のようにそこが福音伝道の拠点（センター）となった。このエフェソを中心にアジア全体に福音が伝えられていった。

第2にパウロに学ぶことは、その宣教のヴィジョンの大きさである。エルサレムから始まった福音宣教は、シリアのアンティオキアにその中心が移ったが、そこからパウロは世界へと出て行った。その働きは西へ西へと伸び、小アジアの中心エフェソ、ギリシャの中心アテネとコリントへと拡大して行った。そして、残すは、世界の都ローマ！！パウロは今、エフェソにいるが、彼の目は、遙かに西のローマ、世界の都ローマを見ていた。そして、それだけではない。そのローマを越えて、更に、西の果てのイスパニア（スペイン）をも見ていた！！何という壮大なヴィジョンであらうか！！

ヴィジョンとは何か。ヴィジョンは「夢」や「幻」と訳される。何の夢であらうか？ 何の幻であらうか？ それは、福音のための「夢」であり、福音を伝えたいという伝道の「幻」であり、一人でも多くの人に福音を伝えたいという切なる「願望」であり、出来るだけ多くの人を救いに導きたいという熱心な「祈り」である！

この夢や幻、願望と祈りこそ、教会の命であり、教会の力の源泉である。全世界に出て行ってすべての造られた者に福音を伝えよ。これが主が弟子たちに与えられて宣教の命令であり、ヴィジョンであった。使徒パウロから学ぶことは、何と言ってもこの、伝道への情熱であり、そして、そのヴィジョンの大きさである。そのヴィジョンこそが世界宣教のダイナミックな力の源泉であった。

日本の教会が存在し、私たちがこうして存在するということは、当たり前なことではない。私たちが救われるためには、ヨーロッパの（そしてアメリカの）教会のヴィジョンがあった。熱烈な祈りがあった。彼らの目は、東の果て、地の果てを見ていた！！彼らは命がけて地の果てを目指して福音を伝えて来た。そのおかげで、日本にも福音が伝えられて来た。教会に、そのような宣教のヴィジョンが欠けると、教会の勢いは衰え、その霊的生命は沈滞していく。私たちもそのようなヴィジョンに生きる者になりたいと思う。